

公刊にあたって

皆さまのご協力のおかげで、本年も「図説 わが国の慢性透析療法の現況 2016年12月31日現在」(以下、「図説現況」という)を公刊することが出来ました。国の倫理指針に基づき、2015年調査から匿名化を強化した調査を実施しておりますが、今年度初めて完全匿名化データを用いてデータクリーニングを行いました。幸いトラブル無く突合を完了し、歴史のある日本透析医学会のデータを途切れさせることなく継続する事が出来ました。これもひとえに多忙な日常診療の中、統計調査にご協力いただいた皆様のおかげと深くお礼申し上げます。

以前は6月の総会時に速報値集計の図説現況を、11月に再調査を終えた確定値で「わが国の慢性透析療法の現況 CD-ROM版」(以下、「CD-ROM版現況」という)を発行しておりましたが、2014年の報告から図説現況とCD-ROM版現況は、再調査を終えた確定値で全ての集計を統一しております。ただし今年度はデータ集計の遅延から、CD-ROM版現況の完成が若干遅れております。CD-ROM版現況は2018年の可及的早い時期に改めてお送りします。システムの移行期であり、皆様にご迷惑をおかけいたしますが、何卒ご理解賜りますようお願い申し上げます。

2016年調査の回収状況、および新規調査・解析結果についてご報告します。

例年通り日本透析医学会会員施設に加え、非会員施設、新規開設施設も対象として行われました。2016年末の対象施設は4,396施設で、前年より16施設増加しました。締め切りは例年通り1月末でしたが、再調査も含め、6月30日を最終期限としました。その結果、施設調査票にご協力頂いた施設は4,336施設(98.6%)であり、目標とした98%以上の回収率を達成することが出来ました。施設調査票と患者調査票の両方にご協力頂いた施設は4,186施設(95.2%)であり、患者調査票に関しては用紙媒体を廃止し、USBメモリのみを用いたにもかかわらず、90%以上の回収率を達成することが出来ました。

調査内容としては新規調査を行わず、2015年と同じ内容で調査を行いました。これまで皆様の日常臨床にリアルタイムで有効な情報を還元するために、各年度で様々な新規調査項目を設定してきましたが、2015、2016年調査は、匿名化強化のシステムの構築を最優先にしたために新規調査は行いませんでした。

2014年の現況から始まったJRDRハイライトでは、これまでに統計調査データベースを用いて、統計調査委員会委員と2008年から開始された公募研究により論文化され、世界に発信された研究を紹介しています。今年もその中から、9編の論文を選択し、その一部をダイジェスト形式で掲載しています。皆様のご協力で成り立つ統計調査が、わが国の透析治療だけでなく世界の透析治療に方向性を与えていることを実感していただけますと幸いです。

日本透析医学会の統計調査は、ほぼ全数調査と言える回収率ゆえに、バイアスのない透析患者の詳細なデータベースとして世界的に評価されています。そして、そのデータベースは全国の透析施設の皆さまの献身的なご協力によって維持されております。この世界に誇るべきデータベースを利用して、会員の皆さまの日常臨床に寄与する情報を提供すること、わが国の透析医療の形を世界に向けて発信していくことが日本透析医学会の重要な使命と考えております。本学会の統計調査にご協力頂いた皆様、ならびに全国の地域協力委員の先生方に重ねてお礼申し上げます。

平成29年11月

一般社団法人 日本透析医学会
理事長 中元 秀友
統計調査委員会委員長 政金 生人